

今回は、空港拡張整備事業の進め方についてご説明します。

現在、事業に対する同意取得作業を行っていますが、一般的な事業スケジュールは以下のとおりです。

①住民合意形成

- パブリック・インボルブメント（P I）^{（※1）}の実施
- 環境アセスメント^{（※2）}の実施



②基本的な調査や設計

- 現況調査、基本設計
- 実施測量、地質調査
- 実施設計



③航空法の設置許可

- 施設設置（変更）の許可



④用地買収・工事

- 用地丈量測量
- 用地交渉・買収
- 工事



開港



※1 パブリック・インボルブメント（P I）

空港整備計画の検討段階において、周辺地域の住民などに情報を公開したうえで計画策定に参画していただき、計画に住民意見を反映させます。

※2 環境アセスメント

土地の形状の変更、工作物の新設などを行う事業者が、あらかじめその事業による環境への影響について、自ら適正に調査・予測および評価を行い、その結果に基づいて環境保全措置を含む事業計画を検討するもので、結果に対して環境大臣の意見が付されます。

《参考》

他の離島空港の事例として、沖縄県の新石垣空港は、平成15年1月にP Iを実施してから約10年後の平成25年3月7日に開港しました。

◆市役所交通政策課 ☎63-3184

姉妹都市コーナー

10月26日(土)・27日(日)の「第35回入間万燈まつり」、11月4日(月)の「第30回国分寺まつり」に、佐渡の芸能と物産が参加しました。

◆入間万燈まつり

今年の入間万燈まつりは、台風27号の影響が心配されましたが、まつりが始まるとともに徐々に天候が回復し、多くの来場客でにぎわいました。

佐渡からは芸能や物産関係者など総勢約120人が参加しました。佐渡物産展では、おけさ柿や海産物、沖汁、サザエ飯などが大好評のうちに完売したほか、芸能公演では、羽茂民謡研究会や柿野浦鬼太鼓保存会が初参加し、多くの入間市民が佐渡芸能に興味深く見入っていました。



おけさ柿を買い求める行列

◆国分寺まつり



両市長による記念盾の交換

今年为国分寺まつりは、一時、小雨がぱらつく場面がありましたが、多くの来場客でにぎわいを見せていました。

国分寺市とは、平成元年4月に旧真野町において姉妹都市提携が結ばれてから今年で25年目を迎えることから、開会式において、両市長が両市の木「アテビ（佐渡市）」と「ケヤキ（国分寺市）」で作製された記念盾の交換を行いました。

また、姉妹都市25年目を記念して、芸能披露では後尾集落鬼太鼓が初めて披露されたほか、佐渡物産展では、活サザエなどの海産物や地酒、果物、佐渡牛コロケバーガーなど、幅広い佐渡産品に長蛇の列ができていました。